

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	令和6年度 第3回桶川市いじめ対策委員会	
開催日時	令和7年2月7日（金） （開会）午後1時30分・（閉会）午後2時40分	
開催場所	桶川市役所 会議室401	
主宰者の氏名		
議長の氏名		
出席者氏名 （委員）	3名	
欠席者氏名 （委員）	2名	
説明員氏名		
事務局職員 職名及び氏名	2名	
会 議 事 項	議 題	
	開会	
	1 あいさつ	
	2 協議等	
		（1）令和5年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
		（2）桶川市のいじめの現状について
		（3）その他
		3 次回以降の予定について
	閉会	
	決定事項等	
配布資料	次第・名簿 令和5年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について 桶川市のいじめの現状について	

会 議 録 (2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	開会
	1 あいさつ (省略)
	2 協議等
	(1) 令和5年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
委員長	事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に基づいた説明
委 員	資料にある「メンタルヘルス研究推進校」は、桶川市では指定はあるのか。
事務局	桶川市では、指定された学校はない。本市では、生徒指導重点校が2校指定されている。
委 員	どのような学校か。
事務局	生徒指導上で課題があると思われる学校に、生徒指導や教育相談体制を充実させるために、加配教諭を1名配置する制度である。
委 員	中学校か。
事務局	令和6年度は中学校2校が指定されている。県に申請をするが、要望した学校全てが指定されるわけではない。
委員長	本来は各市町村で必ず指定があるとよいのではないか。
委 員	「埼玉県メンタルヘルスリテラシーツール」を配布したのだから、各学校で取り組んでほしいということか。
事務局	今年度の4月に各学校に配付した。中身は、教職員向け研修資料、保護者向け啓発資料、児童生徒向け授業教材となっている。各学校で活用されている。
委 員	研修と言っても、学校では、活用するタイミングが難しいのではないか。
事務局	学校の働き方改革で、各種の会議や研修は精選が進んでいるが、重点的に取り組んでほしいと伝えている。

委員	スクールカウンセラーの配置についてはどうか。
事務局	スクールカウンセラーの全校配置は要望を出しているが、なかなか実現されない。
委員	学校の教職員に負担をかけずにできるとよい。
事務局	保護者向け啓発資料等は、懇談会や入学説明会の際等に、教職員と保護者が一緒に視聴するような機会を設けてもよい。
委員長	結果考察のところに、新型コロナウイルス感染症の影響と思われる記述があるが、収束してからすでに数年たっている。コロナ以外の理由付けがそろそろ必要となってくるのではないか。
委員	コロナが追い打ちをかけた部分がある。子どもだけではなく、保護者のコミュニケーション能力も低下している可能性がある。
委員長	最近では、短文ばかりでコミュニケーションをとる傾向がある。長文の能力がかなり落ちている。短文でダイレクトに表現できる人がいいという風潮もある。
委員	容易に好き嫌いの感情に持ち込むという弊害もある。
委員長	(2) 桶川市のいじめの現状について 事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に基づいた説明
委員長	1人1台端末でのいじめについて。
事務局	悪口を書き込まれたという事案があった。
委員	5月、7月に認知されたいじめがまだ解消していない事案がある。
事務局	いじめに係る行為が止んでから3か月の見届けが必要である。3か月経過していないか、いじめられた児童生徒が、まだ嫌な思いをしているということである。

委 員	心配な事案である。ストレスにさらされ続けていることであるから、事案については市教委でも把握すべきである。
委員長	いじめた相手の存在自体が嫌だと感じる子どももいるのではないか。そうなるとクラスを変えるしかない。
事務局	謝ってもらっても「許せない」と感じる児童生徒もいる。
委 員	許すというのは相当のスキルが必要だ。
委 員	人間は、自分が相手よりも強いと思えないと、許せないもの。自分も安心できて初めて、相手を許せる気持ちになる。トラウマをずっと抱える子どももいる。「許せない」と言える子どもはまだいい。どういう風になれば許す気持ちになれるか聞いてみるとよい。できること、できないことがあると思うので、できることからやってみる。
事務局	現委員でのいじめ対策委員会は今回が最終である。これまでも本市のいじめ防止について、いろいろなご示唆をいただいたが、最後に一言ずつお願いしたい。
委員長	いじめは、なくなったほうがよいが、起こるものは起こる。この国の形の在り方が変わっている。良い悪いはともかく、昔には戻らない。昭和と平成は全然違う。若い先生方が新しい取組を考えていった方がよいのではないか。
委 員	話が通じないことを前提として、話のわかる大人になってもらいたい。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、さわやか相談員など、教員以外の大人がしっかり学校に入っていくことが必要。
委 員	いろいろなアイディアはあるが、現場ができることを提案し、効果検証まで見届けたい。委員が提案したことを実際に学校でやってもらい、次回の対策委員会で検討していく仕組みを作りたい。具体的にリミットを決めてやっていくことが必要である。何よりも、先生が元気でないとだめだと思う。良かれと思ってやっているこれまでのスタイルを変えていけないといけない。自分の身を顧みず保護者や子どもに尽くしている姿は、セルフネグレクトである。とてもこんな風には働けないと思った若者が、先生を目指さなくなっているのではないか。先生同士は協力し合ってほしい。チームとしてまとまってほしい。一人で抱え込まずほどほどに、みんなで協力することで、一番力が発揮できる。お互いに認め合ってチームを作ってほしい。

	閉会
--	----